



受注・在庫管理システムを再構築 ホスト撤廃でランニングコストを75%削減

「NSSDCクラウド」によるオフショア開発で品質とコスト効率を向上

背景

長期IT投資計画に沿ってホスト上のシステムを順次、オープンシステムへ移行している。その最終段階となる受注・在庫管理システムの移行では、IT環境変化への対応、ランニングコストの削減などを目標に掲げた。



株式会社Mizkan Partners
 管理本部
 情報システム部
 システム開発1課
 課長
柁田 浩司氏



株式会社Mizkan Partners
 管理本部
 情報システム部
 システム開発1課
坂本 昌俊氏



株式会社Mizkan Partners
 管理本部
 情報システム部
 システム開発1課
太田 豊氏



株式会社Mizkan Partners
 管理本部
 情報システム部
 システム開発1課
嶋 祐介氏

ソリューション

旧ホストシステムを解析して無駄を省いてからスクラッチで新システムを開発する提案を行ったNSSOLに支援を依頼。NSSOLはオフショア開発を社内クラウド上の独自開発環境で進め、システムの品質とコスト効率を向上させた。

成果

ホストシステムを計画通り撤廃。オープンシステムへの移行によるIT環境変化への対応とランニングコストの削減、若手社員とのノウハウ共有などによるIT部門の組織対応力強化やプロジェクトマネジメント標準の定義が実現した。

長期IT投資計画の最終段階で、受注・在庫管理システムの移行を検討

食酢やぼん酢「味ぼん」といった食品の製造販売を行い、変革と挑戦を続けるミツカングループ。「金のつぶ」ブランドなどの差別化した納豆の開発や企業買収による海外事業の拡大にも積極的に取り組む。IT投資においても長期計画「ITランドデザイン」に基づいて、ホスト上の基幹業務システムを順次、オープンシステムへ移行してきた。

ミツカングループがその最終段階となる受注・在庫管理システムの移行を本格化したのは2013年である。同システムは長年の改修で機能が複雑化し、ドキュメントの整備も追いついていなかった。グループの内務カンパニーであるMizkan Partnersは「IT環境変化への対応」「ホストランニングコストの削減」「情報システム部の組織対応力強化」「プロジェクトマネジメント標準の定義」を移行の目標に掲げた。

旧ホストシステムを解析してスクラッチで再構築、オフショア開発を実施

ミツカングループは複数のITベンダーに提案を求め、その中から最も効果的に目標を実現できる提案を行った新日鉄住金ソリューションズ（以下、NSSOL）に支援を依頼する。決め手は、オフショア開発でコスト効率を高めつつ、旧ホストシステムの仕様を明確化したうえで、使われなくなった機能を省いた新システムをスクラッチで再構築できる点であった。プロジェクトは2014年1月にスタートした。Mizkan Partnersは、旧ホストシステムのプログラムを解析してドキュメントを作成し、移行する機能を選定して新システムを設計。NSSOLは、マイクロソフトの.NET技術をベースにした独自の開発フレームワーク「AmiNavire（アミナビール）」を活用するとともに、社内クラウド上の独自開発環境「NSSDCクラウド」で中国の開発拠点と連携し、システムの品質を向上させた。

IT部門の組織対応力強化やプロジェクトマネジメント標準の定義も実現

「M-OISYS」と名づけられた新たな受注・在庫管理システムは、2015年9月に本格運用を始め、安定運用を実現している。ミツカングループは同年11月末、30年余り運用してきたホストシステムを撤廃した。

新システムの成果は期待通りである。オープンシステムへ移行することでIT環境変化への対応を実現したのはもちろん、ランニングコストは以前に比べて約75%も削減された。本プロジェクトを通じた若手社員とのノウハウ共有やドキュメント類の整備などで、情報システム部の組織対応力強化やプロジェクトマネジメント標準の定義も達成されている。今後は、運用管理の強化などでシステムの安定性をこれまで以上に追求しながら、取引先の要望に応じて機能追加や改修を行っていく予定である。

Key to Success

ミツカングループが新受注・在庫管理システム「M-OISYS」を構築する際に掲げた目標は、オープンシステムへの移行により、IT環境変化への対応とコスト削減を実現することだけではない。

Mizkan Partners 管理本部 情報システム部 システム開発1課 課長の柁田浩司氏は「基幹業務システムを再構築するような大規模プロジェクトは、情報システム部の組織対応力を強化する良い機会でもあります。そこで今回は若手社員を含めたプロジェクト体制を作りました。併せて、プロジェクトマネジメントや開発の方法論に関する社内標準の整備を目標に掲げています」と語る。

ミツカングループが移行の支援を依頼したのがNSSOLである。

同課の坂本昌俊氏は「ITベンダー各社の提案内容を複数の評価軸で厳格に点数化した結果、NSSOLにプロジェクトの支援を依頼しています。NSSOLには、その高い評価を裏づける実績もありました。ミツカングループの生産管理系、物流系など、いずれも24時間365日稼働するミッションクリティカルなシステムを構築し、安定運用を実現しています」と振り返る。

プロジェクトは、旧ホストシステムのプログラム解析から始まった。

同課の太田豊氏は「プロジェクトでは、受注機能と在庫管理機能それぞれについて、ベテラン社員と若手社員がペアになって開発に取り組み、ベテラン社員、若手社員と事業部門の現場がきめ細かなノウハウを含めた情報を共有していきました」と語る。

坂本氏は「長年、改修を続けてきたシステムだけに、解析には予想より手

間がかかり、スケジュールもタイトでしたが、NSSOLの担当者がメンバー一人ひとりの進捗を見える化し、的確な指示をしてくれました」と話す。

NSSOLが各自の進捗を見える化 高品質のオフショア開発を推進

オフショア開発は円滑に進んだ。坂本氏は「オフショア開発には、一抹の不安がありましたが、すぐに吹き飛びました。中国の拠点を訪問して開発の様子を確認しましたが、予想以上に厳格な管理のもとで行われていると感じました」と振り返る。

同課の嶋祐介氏は「我々に対応した中国の開発者は、日本人と同様に日本語を読み書きでき、人材のレベルが高いと感じました。実際に今回のプロジェクトでは、開発ドキュメントに書

かれた日本語の意味を取り違えて発生した不具合は、私どもの立場では感じられませんでした」と話す。

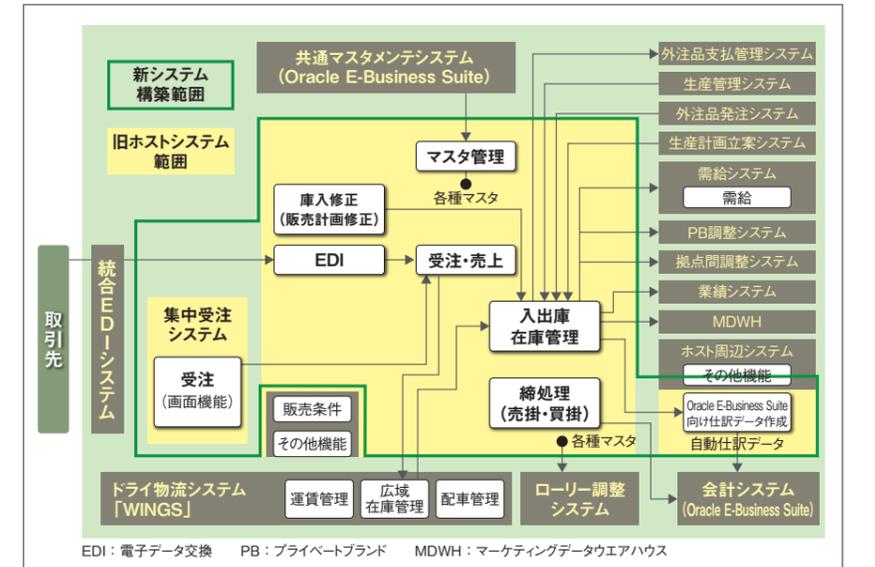
完成した新受注・在庫管理システムの成果は期待通りである。

柁田氏は「プロジェクトのスタート時点で掲げた四つの目標はすべて達成し、安定稼働するシステムが導入できました。プロジェクトを通じて若手社員が大きく育ったのは特に大きな成果です。プロジェクトマネジメント標準の定義も期待通り実現できました」と述べる。

NSSOLの支援に対する評価も高い。

柁田氏は「ミツカングループでは、多数のシステムをオープンシステムへ移行しました。いずれも大きなトラブルはほとんど発生していませんが、特にNSSOLの担当したシステムでは当社が「重大」と定義するトラブルの件数はゼロです。この実績をこれからも維持してもらいたいと思います」と話す。

■ミツカングループが導入した新受注・在庫管理システム「M-OISYS」の概要



「M-OISYS」「WINGS」はミツカングループ社内システムの名称

■コアテクノロジー
 モダン化、NSSDCクラウド、.NET Framework、AmiNavire（アミナビール）

■システム概要
 サーバー：Windows Server 2012 R2×2（VMHA構成）
 ミドルウェア：Oracle Database 11g R2



ミツカングループ
 売上高：連結2486億円（2016年2月期）
 社員数：約3700名